

令和3年度 基本施策評価シート

作成日 令和3年 6月 9日

基本施策	G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	芸術文化に親しみ、心豊かに生活している。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ			G4:230ページ
基本施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子
関係課名	学校教育課、生涯学習課		

基本施策の評価

Cd 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている
<p>判断理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本施策の成果指標2つのうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「C」とする。 個別施策の成果指標すべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「d」とする。 <p>【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】</p> <p>(1)新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止やホールの休館など、芸術文化活動が制限される状況が長期化している。安全安心にホール利用ができるよう、サーモグラフィーの導入や施設利用のためのガイドライン・チェックリストの作成などを行ったが、これまでどおりに芸術文化活動を行うことが難しい状態となっている。また、イベント開催については、入場者数を縮小することによる収入減、対策を行うためのスタッフの増員、対策費用の発生、イベントを中止した場合のキャンセル料の発生など、多くの課題があり、市民文化団体については、高齢化や人員不足などにより、対応が困難な場合も多い。</p> <p>(2)市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出のために、既存事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行いながら、可能な範囲で実施するとともに、オンラインの活用、「新しい生活様式」を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」を創設するなど、新たな取り組みを行うことで、市民演奏家等の出演機会、市民の鑑賞機会を提供するとともに、新しい生活様式でのコンサート開催のノウハウなどを蓄積し、市民文化団体ともノウハウの共有ができた。しかしながら、感染対策を行った上で実施できる事業が限られ、多くの自主文化事業を中止または規模の縮小をせざるを得なかったことが要因と思われる。</p>

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H29	H30	R元	R2	R3
芸術文化を鑑賞する市民の割合	45.6% (26年度)	↑ 目標値	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%	49.5%
		実績値	54.2%	53.7%	51.2%	42.5%	
		達成率	109.5%	108.5%	103.4%	85.9%	
芸術文化活動を行う市民の割合	15.1% (26年度)	↑ 目標値	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%	18.9%
		実績値	19.8%	18.3%	18.6%	19.5%	
		達成率	104.8%	96.8%	98.4%	103.2%	

今後の取組方針

(1)…引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応した新たな手法も取り入れながら、事業を企画・立案するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で始まった新たな動きを活かした事業展開も行っていく。しかしながら、芸術文化は生で体験することでしか得られないものも多いことから、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、本来の姿での事業を再開していく。また、子どもたちにとっても芸術文化活動が制限されることが多かったため、子どものときにしか体験できない未就学児を含む子どもを対象とした事業に積極的に取り組み、子どもの頃から芸術文化に親しみ、楽しむ機会を創出する。遠藤周作文学館については、未発表小説の発見により全国的な注目を集めたところであり、遠藤周作没後25年、生誕100年という大切な節目の年が続くことから、この機会を活かした事業展開を行うことで、入館者の増加を図る。

(2)…新たに開設した芸術文化専用のホームページを活用し、市主催事業等の積極的な情報発信を行うとともに、新たなホームページでは登録市民文化団体の情報発信が可能となったことから、団体登録のメリット等を改めて周知し、市民文化団体が自ら情報発信する機会を増やすことで、芸術文化活動に関わる市民の増加を目指し、市民の芸術文化活動の活性化を図る。また、市民が参加・出演し、芸術文化を楽しめる場を創出する取組みを継続することにより、自主的な芸術文化活動の活性化を図る。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Cd」については、所管評価のとおり。
- (G4-1) マダムバタフライフェスティバルについては、オンラインを活用したことで観客数が増えているので、成果・効果及び今後の取組方針に具体的に記載して良いのではないかと。
- (G4-1) 長崎市の重点プロジェクトにおいて、若者の芸術文化体験が掲げられているので、今後の取組方針に記載して良いのではないかと。
- 人口減少や若者の数が減っている中では、市民文化団体が減っていくと考えられるので、今後、団体同士を繋ぐマッチングの機会の提供も検討すること。

令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-1 芸術文化に触れる機会を創出します				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図			
	市民が	様々な芸術文化に身近に触れている。			
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子		

令和2年度 of 取組概要

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・芸術文化活動の再開を目指し、新たな生活様式を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」を実施し、コンサートなどを開催した(22回、1,609人)
 - ・新型コロナウイルス感染防止を行いながら、身近な場所でプロの演奏家による質の高い音楽に触れる場を提供するアウトリーチコンサート(7回)や、普段コンサートに行くことが難しい未就学児とその保護者を対象とした親子向けコンサート(1回)を実施した。
 - ・長崎アートプロジェクトの集大成である展覧会は新型コロナウイルスの影響で中止したが、展覧会開催に向けて、国内外で活躍するさまざまなアーティストやクリエイターと共にリサーチを行い、市民がアーティストとともに作品作りを行った。
 - ・音楽・舞踊・演劇の市民ステージから成る「Nagasakiまちなか文化祭」は新型コロナウイルスの影響で中止したが、過去の演劇ステージ映像を活かしたPR動画を制作し、浜町アーケード内で放映したほか、市民美術家の作品を展示した「まちなか美術館」を新たに開催した。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
- ・長崎が舞台のオペラ「マダムバラフライ」を中心に市民が様々な音楽に触れる機会を創出する「マダムバラフライフェスティバル」については、無観客コンサートの動画配信や視聴者参加型のワークショップの実施など、オンラインを活用した事業展開を行い、ホームページを開設した。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・ブリックホール、チトセピアホールにおいては、サーモグラフィーの導入、施設利用のためのガイドライン・チェックリストの作成を行ったほか、指定管理者との連携のもと、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、安全安心な管理運営を行った。
 - ・ブリックホールの空調設備や大ホールの吊物機構の改修、チトセピアホールの舞台照明器具の取り替えなど、施設の老朽化に伴う改修を行った。
 - ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホール予約の市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度の拡大を継続して実施した。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・未発表小説の発見により、全国的な注目を集め、雑誌取材や報道対応などにより遠藤文学の魅力の発信を行った。
 - ・思索空間アンシャンテにおいて、文学講座(1回)、レコード鑑賞会(1回)を実施した。
- ⑤ 新たな文化施設の整備
- ・令和3年度秋の基本計画策定を目指し、審議会や市民ワークショップを開催し、意見聴取を行った。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3	
文化施設の利用者数	519,302人 (27年度見込)	↑	目標値	520,000	520,000	520,000	520,000	520,000
			実績値	531,651	494,433	459,282	96,246	
			達成率	102.2%	95.1%	88.3%	18.5%	
自主文化事業の参加・入場者数	5,989人 (26年度)	↑	目標値	6,589	8,489	6,989	7,189	7,189
			実績値	5,557	8,495	3,936	3,119	
			達成率	84.3%	100.1%	56.3%	43.4%	
遠藤周作文学館の入館者数	15,200人 (26年度)	↑	目標値	21,600	21,600	21,600	21,600	21,600
			実績値	24,335	25,323	19,570	7,145	
			達成率	112.7%	117.2%	90.6%	33.1%	

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出 「新しい生活様式」を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」を創設するなど、新型コロナウイルス感染症に対応した取り組みを行うことで、市民演奏家等の出演機会、市民の鑑賞機会を提供するとともに、新しい生活様式でのコンサート開催のノウハウなどを蓄積し、市民文化団体ともノウハウの共有ができた。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中でも、市民が身近な場所で質の高い芸術文化に触れる場と、市民の芸術文化活動の発表の機会及び市民が気軽に芸術文化を楽しめる環境を維持できた。</p>
<p>②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出 ・「マダムバタフライフェスティバル」のメインイベントであるコンサートは、コロナの影響により、令和元年度に引き続き令和2年度も中止したが、令和2年度は、オンラインを活用し、無観客コンサートの動画配信や視聴者参加型のワークショップなどを実施したことにより、多くの方に視聴してもらうことができ、また、事業について広く周知することができた。</p>	<p>・「マダムバタフライフェスティバル」については、オンラインを活用した事業展開を行い、ホームページを開設したことで、コロナ禍であっても、事業を継続することができ、新たな事業展開が図られた。また、ホームページの開設により、より多くの方に通年を通してマダムバタフライの魅力の発信が可能となり、今後の事業展開の可能性を広げることができた。</p>
<p>③市の文化施設の管理運営 ・ブリックホール・チトセピアホールでは、指定管理者と連携して新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、老朽化した設備等の更新を行ったことで、安全安心に利用してもらうことができた。 ・ブリックホール大ホールの予約における市民優先日の設定及び施設使用料の減免制度拡大を継続することで、利用しやすい環境を一定整えることができた。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中でも、安全安心に利用できる環境を整えることで、市民の芸術文化活動を維持できた。</p>
<p>④遠藤周作文学館の管理運営 ・文学講座等の事業を継続することで、遠藤文学の魅力の発信ができた。 ・未発表小説の発見により、全国的な注目を集め、広く遠藤文学の魅力の発信ができた。</p>	<p>・遠藤文学の魅力を幅広く周知することができた。 ・未発表小説の発見に伴い、改めて専門家の協力を得て、資料の確認作業等を行うこととなり、資料整理のスピードアップと精度の向上が期待できる状況となった。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出</p> <p>②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業やイベントの開催ができない、または、開催した場合も、参加人数の縮小等を行う必要がある。 ・芸術文化の魅力を生で体感できる機会が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントを中止または延期する必要が生じているため。 ・新しい生活様式での芸術文化活動を実施することにより、参加人数を縮小したり、オンライン等で開催する必要があるため。
<p>③市の文化施設の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の利用者数が減少している。 ・ホールや練習室の予約が取りづらい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、ホールの休館やイベントの中止等が生じているため。 ・公会堂の廃止に伴い、ブリックホール大ホールの稼働率が高い状況であり、市民優先日を設定しても、予約が取りづらい状況にあるため。 ・民間の練習施設が廃止され、市民が利用できる場が減少しているため。
<p>④遠藤周作文学館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数、イベントの参加者数ともに減少している 	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、外出自粛やイベント自体を中止または延期したため</p>

今後の取組方針

- ①市民が身近に芸術文化に触れる機会の創出
- ・新たな手法も取り入れながら、市民が参加したくなるような内容の事業を企画・立案するとともに、新設したホームページなどを活用し、効果的な広報周知活動を行う。
 - ・未就学児を含む子どもを対象にした演劇公演やコンサート、体験教室等、子どもや親子で参加できる機会の創出を積極的に行い、子どものころから芸術文化に身近に親しむことで、大人になっても芸術文化に親しむ人を増やす。
 - ・芸術文化活動の灯火を絶やさないう、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を継続するとともに、市民文化団体が感染対策を行いながら、新しい生活様式に対応した活動ができるよう、助成制度の活用や施設のガイドライン等をわかりやすく周知することにより、市民の芸術文化活動の再開を支援する。
- ②長崎の個性を活かした芸術文化活動の創出
- ・長崎が舞台のオペラ「マダムバタフライ」をテーマとした「マダムバタフライフェスティバル」については、各団体と連携し、内容や広報周知についても工夫を加え、事業の充実を図る。また、引き続き、ブッチーニの生誕の地であるイタリア・ルッカ市との交流を深め、ゲストを招いてコンサートを実施するほか、子どもや親子を対象にした音楽劇を実施するなど、幅広い市民が楽しめる場として充実させる。
 - ・コロナ禍においても事業を継続し次年度の取組みにつながるよう、オンラインを活用してPR動画を配信するなど、実施方法を工夫して事業を展開していくことで、事業の周知を図るとともに新たな参加者を取り込む。
- ③市の文化施設の管理運営
- ・引き続き、指定管理者と連携して新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、老朽化した設備等の更新を行うことで、安全安心に利用してもらう。
 - ・可能な限り、施設利用の機会を制約しないよう工夫しながら、経年劣化や機能の不備に対する計画的な改修等に取組む。
- ④遠藤周作文学館の管理運営
- ・令和3年度は遠藤周作氏の没後25年の節目を迎えることから、記念の事業を実施するとともに、企画展示のリニューアルを行い、リピーターを含めた入館者の増加を図る。また、翌年度に遠藤周作氏の生誕100年を迎えるため、今後も計画的に事業に取り組むことで偉業を顕彰する機運を高め、文学館の認知度向上やイメージアップ等を図る。
- ⑤新たな文化施設の整備
- ・文化振興審議会委員や市民から幅広い意見を聴取しながら基本計画を策定し、令和8年度の完成を目指し、引き続き整備のための検討を進める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	<p>(事業名) 音楽の魅力発信事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 市民生活に音楽芸術を広く浸透させるとともに、次世代の文化活動を担う人材の育成を図る。</p> <p>(事業概要) 中央及び地元で活躍する演奏家を、学校・保育園・公民館・病院等へ派遣して行うアウトリーチコンサートや、アウトリーチコンサートに出演した演奏家が一堂に会するコンサート等を開催することにより、市民が身近な場所で気軽に音楽を楽しめる機会を創出する。また、地元演奏家が活動できる場を設け、演奏家のスキルアップを図る。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	2,434 人	2,330 人
		実績値	2,097 人	821 人
		達成率	86.2 %	35.2 %
		決算(見込)額	4,663,377 円	2,295,760 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、アウトリーチコンサート1,000人(20回×50人)、ミニコンサート(香焼公民館ホールで実施)234人(定員361人×0.65)、親子向けコンサート100人(定員100人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を目標値とした。</p>	<p>市民が音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績により、アウトリーチコンサート950人(19回×50人)、プレザントコンサート100人(2回×50人)、ガラコンサート130人(定員200人×0.65)、親子向けコンサート50人(定員50人)、ラウンジコンサート1,100人(出演200人、入場者900人)を想定した。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催状況:市内各所 計19回 ・ミニコンサート 開催日:令和2年2月23日 会場:香焼公民館ホール ・親子向けコンサート 開催日:令和元年12月7日 会場:チトセピアホール ・ラウンジコンサート 開催数:年8回 会場:ブリックホール <p>(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アウトリーチコンサート及びラウンジコンサートの開催を各1回中止)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 2,097人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 入場者数:886人 ・ミニコンサート 入場者数:213人 ・親子向けコンサート 入場者数:62人 ・ラウンジコンサート 入場者:735人、出演者:201人 <p>アウトリーチコンサートにおいては、事業効果を高めるために少人数を対象に実施しており、前年度に比べ入場者数は伸び悩んだものの、アンケートでは好評であった。</p> <p>ミニコンサートについては、香焼地区で実施したが、地元を中心に市内各所から多数の集客があり、プロの演奏家によるコンサートが少ない地区でプロの演奏家による質の高いコンサートを実施することにより、音楽を楽しむ機会を提供できた。</p> <p>今後も、より多くの市民にホールへ足を運んでいただき、音楽に触れられる機会を創出できるよう、引き続き工夫に努める。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 開催状況:市内各所 計7回 ・親子向けコンサート 開催日:令和2年11月1日 会場:東公民館 ・ラウンジコンサート 開催数:年6回 会場:ブリックホール <p>(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、アウトリーチコンサート3回、ガラコンサート1回、プレザントコンサート2回、ラウンジコンサート3回計9回を中止)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数 821人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチコンサート 入場者数:298人 ・親子向けコンサート 入場者数:27人 ・ラウンジコンサート 入場者:388人、出演者:108人 <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約半分近くのコンサートを中止したが、人と人との距離を確保するなど、感染防止対策を講じたうえで開催できたものについては、アンケート結果は好評であった。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、市民が音楽に触れられる機会を創出できるよう、引き続き工夫に努める。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
2	(事業名) 長崎アートプロジェクト事業費 【文化振興課】 (事業目的) 市民がアーティストとその作品及び制作過程に直接触れる機会を創出し、市民に芸術文化を身近なものとし、興味関心を高める。 (事業概要) プロのアーティストが市内に一定期間滞在し、滞在期間中にワークショップや作品制作及び展覧会等を開催し、市民との芸術的な交流を実施する。	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	100 人	1,080 人
		実績値	55 人	105 人
		達成率	55.0 %	9.7 %
		決算(見込)額	1,828,000 円	2,023,869 円
		成果指標及び目標値の説明	開催するワークショップの参加者数を成果指標とした。 過去の実績により、ワークショップ参加者80人(20人×4回)、ボランティアスタッフ20人(5人×4回)を目標値とした。	企画会議 70人(10人×7回)+事業説明50人(10人×5回)+サポーター活動60人(15人×4回)+イベント200人(100人×2回)+展覧会200人(20人×10日)+動画視聴者500人(50人×10回)
取組実績、成果・課題等	(取組実績) アートやアーティストに関する専門的な知識やスキルを有するキュレーターを選定し、開催候補地の視察及び地域住民との意見交換を行い、会場及び展示内容の決定、イベントを実施。 ①キックオフ企画 冊子『地層／時間』の制作 キックオフイベントとして写真展やトークイベントを旧樺島小学校で実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止したため、展示予定の内容を冊子『地層／時間』として作成し、地域住民への回覧、協力者への配布を実施した。 内容:「エイジング(歳や時間を重ねること)」をテーマに野母崎地区で地域住民が撮影した写真を、撮影者のコメントとポートレートとともに編集した。 ②地域住民との調整等 アートプロジェクト実施に伴い、地域住民への説明、意見交換等を行った (成果・課題等) ①冊子作成参加者 55人 回覧者数/2,100世帯 発行部数/800冊 ②66回 キュレーターが入ることにより、より専門的知見で企画がなされたとともに、他都市のアートプロジェクトとの連携や複数人のアーティストが招聘できる企画につながった。 また、新型コロナウイルス感染症の関係でイベントが中止となったが、キュレーターの提案で冊子として再構成するなど、助言を得ることで、現状を捉えながら新たな発想で早急に事業展開できた。今後も、現状を鑑みながら事業展開を図る。	(取組実績) 野母崎地区を舞台に、地域住民とともに「エイジング(歳や時間を重ねること)」をテーマに取り組むアートプロジェクト。展覧会開催に向けて、国内外で活躍するさまざまなアーティストやクリエイターと共にリサーチを行い、歳を重ねることで見えてくる風景や経験の共有、後世への継承など、この場所の未来を考えるためのきっかけを提示するプロジェクトを実施。展覧会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止。 ①まだ見ぬ野母崎の音プロジェクト 野母崎の「音」と「映像」を軸とした作品を、アーティストとプロジェクトメンバーで協働制作するプロジェクト。 ②「記憶の彫刻」プロジェクト 人や野母崎という土地の「記憶」にまつわる作品を、プロジェクトメンバーやアーティスト等と一緒に制作するプロジェクト。 ③「ちそうの学校」 遠隔でも運営可能なトークプログラムを通し、地域住民やプロジェクトに参加するアーティストたちがそれぞれの有する「知」を共有し、折り重ねていく企画。 (成果・課題等) ・プロジェクト参加者 97人【13人(まだ見ぬ野母崎の音楽プロジェクトメンバー)×6回=78人、)記憶の彫刻プロジェクト19人】 新型コロナウイルス感染症の影響で、県外との往来が困難な時期もあり、結果として展覧会は中止となったが、市民がアーティストとともに作品づくりを行うなど、市民にとって身近な芸術文化活動を行うことができた。		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
3	<p>(事業名) Nagasakiまちなか文化祭開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 芸術文化活動を行っている個人・団体の発表の場を創出するとともに、市民が身近に芸術文化を楽しむことができる機会を提供し、「まちなか」の賑わいにもつなげる。</p> <p>(事業概要) 「Nagasakiまちなか文化祭」と称し、出演者を公募し、書類審査に加え楽曲・映像審査などによる選考後、音楽・舞踊・演劇の各ジャンルの市民ステージを開催する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	1,510 人	1,510 人
		実績値	1,111 人	0 人
		達成率	73.6 %	0.0 %
		決算(見込)額	3,012,250 円	932,268 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績等により、来場者見込み1,400人(音楽400人、舞踊400人、演劇600人)、出場者見込み110人(音楽50人、舞踊50人、演劇10人)を目標値とした。</p>	<p>市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、過去の実績等により、来場者見込み1,400人(400人(音楽)+400人(舞踊)+600人(演劇))、出場者見込み110人(音楽50人+舞踊50人+演劇10人)を想定した。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽ステージ 開催日:令和元年10月26日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ 舞踊・ダンスステージ 開催日:令和元年10月27日 会場:ベルナード観光通り特設ステージ まちなか劇場(演劇) 開催日:令和元年10月26日、27日 会場:カレーの店夕月、(株)浜屋百貨店、安達株式会社 <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者数 1,111人 音楽ステージ 応募数:22組 出演者:10組42人 入場者数:387人 舞踊・ダンスステージ 応募数:9組 出演者:9組90人 入場者数:130人 まちなか劇場 応募数:14人 出演者:12人 入場者数:450人(2日間延べ) <p>商店街との共催により開催。音楽、舞踊・ダンス、まちなか劇場のいずれも好評で、多くの来場者があり、市民の芸術文化活動の発表及び鑑賞の場となるとともに、まちなかの賑わいづくりにとも一定の役割を果たしている。</p> <p>恒例イベントとして定着しつつあるが、実施場所である商店街の予約状況が飽和状態にあるため、実施場所・形態について検討が必要。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなか劇場(演劇) 過去のまちなか劇場上演作品を編集した動画を制作し、ハマクロスの大型ビジョンで放映した。 放映期間:令和3年3月19日(金)~4月2日(金) まちなか美術館 市内で活動している美術家の作品を展示 開催日:令和3年3月23日(火)~28日(日) 会場:梅月堂本店2階およびハマクロス1階エスカレーター横 <p>(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなか劇場(演劇) 放映回数 150回 まちなか美術館 市民美術家 8名 作品展示数 15点 (梅月堂7点、ハマクロス8点) <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年浜町で行っていた市民ステージ、まちなか劇場を中止したものの、これまでの作品を紹介したPR動画の作成・放映や、商店街店舗と連携して、まちなかで市民美術家の作品展示を行った。</p> <p>今後も、コロナ禍でも実施できる手法も取り込みながら、市民が身近に芸術文化に触れられる機会を創出できるよう、引き続き工夫に努める。</p>		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
4	(事業名) 遠藤周作文学館運営費 【文化振興課】 (事業目的) 長崎市ゆかりの文学者遠藤周作氏の遺品、作品その他資料の閲覧と併せ、遠藤文学の文学講座等を実施し、遠藤文学に関する情報発信と市民文化の振興を図る。 (事業概要) 遠藤文学に関する文学講座等を実施する。	実施年度		
		成果指標	文学講座等の参加者数	
		目標値	1,070 人	1,120 人
		実績値	767 人	196 人
		達成率	71.7 %	17.5 %
		決算(見込)額	1,019,480 円	277,050 円
		成果指標及び目標値の説明	遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。 過去の実績及び会場の定員により、1,070人(映画上映会800人(2回)、文学講座120人(3回)、レコード鑑賞会40人、偲ぶ一日70人、文学さるく20人、バスツアー20人)を目標値とした。	遠藤文学への関心を高め、市民文化の向上につなげることを目指しているため、文学講座等の参加者数を成果指標とした。 過去の実績及び会場の定員により、1,120人(文学講座120人(3回)、レコード鑑賞会30人、遠藤周作を偲ぶ一日500人、映画鑑賞会450人(2回)文学さるく20人)を目標値とした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 映画上映会 602人(2回) 文学講座 69人(2回) 遠藤周作を偲ぶ一日 57人 レコード鑑賞会 23人 文学さるく 16人 (成果・課題等) 文学講座等の参加者数 767人 文学館入館者数 19,570人 企画展リニューアルの2年目にあたり、入館者数が減少した。 文学講座等の参加者数は目標を達成できなかったものの、参加者数は増加した。 令和2年度は、開館20周年の節目の年にあたり、企画展リニューアルや20周年記念事業の開催等により、より多くの入館者が期待できる。 今後も、これまでのイベントを継続しつつ、施設の魅力を生かした事業や資料の整理を進めることで研究や展示をより深め、さらなる情報発信に努めるとともに、入館者の増を図る必要がある。	(取組実績) 映画上映会 120人(1回) 文学講座 38人(1回) レコード鑑賞会 23人 文学さるく 15人 (成果・課題等) 文学講座等の参加者数 196人 文学館入館者数 7,145人 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で休館となる月もあったが、遠藤周作氏の未発表小説「影に対して」の原稿が発見され、7月から開館20周年企画展で生原稿と草稿を公開したところ、メディアでも大きく取り上げられ、全国的な注目を集めたことから、企画展前月と比較して来館者が増加した。 令和2年5月に策定したガイドラインに基づき、感染拡大防止対策を講じたうえで、令和2年6月から令和3年3月まで市民無料開放も行ったが、修学旅行等の団体での来館がなくなり、入館者が前年比で約6割減となった。 文学講座等についても、感染拡大の影響により、予定の半分しか実施できず、目標数値に至らなかった。 令和3年度は、遠藤周作氏の没後25年の節目を迎えることから、毎年開催している「遠藤周作を偲ぶ一日」を記念事業として拡大して実施するとともに、企画展示のリニューアルを行うことにより、引き続き感染拡大防止対策を講じながら、リピーターを含めた入館者の増加を図る。 また、並行して施設の魅力を生かした事業や資料の整理を進めることで、研究や展示内容をより深め、さらなる情報発信に努める。		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
5	<p>(事業名) マダムバタフライフェスティバル開催費負担金</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 演奏家や主催団体の連携により、多くの市民が音楽を楽しむ機会を創出し、芸術文化への興味関心を高めるとともに、文化団体等のネットワーク構築を図る。</p> <p>(事業概要) 市内文化団体、大学、市等で構成する実行委員会により音楽イベントを開催する。ブリックホールやココウオーク、ハートセンターなど茂里町一帯で行う音楽フェスティバルとして、子どもから高齢者まで楽しめる体験コーナー、ブリックホールエントランス等でのミニステージと併せ、「マダムバタフライ」を軸としたコンサートを開催する。 平成28年度は、平成23年度以来となる声楽の国際コンクール「マダム・バタフライ国際コンクールin長崎」を実施。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	入場者数	
		目標値	4,000 人	4,000 人
		実績値	272 人	858 人
		達成率	6.8 %	21.5 %
		決算(見込)額	2,719,747 円	3,261,300 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績により、4,000人(マダムバタフライコンサート1,500人、ミニコンサート700人、たのシツクフェスティバル(1日間)1,500人、親子向けコンサート300人)を目標値とした。</p>	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、入場者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、マダムバタフライコンサートを1,500人、ミニコンサートを700人、たのシツクフェスティバルを1日間延1,500人、親子向けコンサートを300人とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>①たのシツクフェスティバル ランタンフェスティバル会場でのミニコンサート 開催日：1月26日、28日 会場：中央公園会場ステージ 参加料：無料</p> <p>②親子向けコンサート(試演会) 開催日：2月18日 会場：長崎大学附属小学校 対象：付属小学校1年生 料金：無料</p> <p>③130周年祝祭コンサート 開催予定日3月22日 会場：ブリックホール大ホール 入場料：自由席(一般)2,000円 (大学生)1,000円 高校生以下無料</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>①156人 【内訳】 1月26日/来場者100人、出演者3人 1月28日/来場者50人、出演者3人</p> <p>②116名/参加者112人、出演者4人</p> <p>③0人(中止)</p> <p>長崎市制130周年記念事業として、ブリックホールを会場にイタリア・ルッカ市から3名の音楽家をゲストに迎える他、130周年を記念した合唱団による第九を組み込んだコンサート、更に子どもから「蝶々夫人」を楽しみ親子向けコンサートを予定していた。また、たのシツクフェスティバルにおいては、プラスワークショップやたぬき絵作家の堤けんじ氏による蝶々夫人に関連するたぬき絵を展示するなどの新たな企画を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。</p> <p>しかし、親子向けコンサートは試演会という形式で付属小学校1年生を対象に実施することができた。また、アンケート結果から子どもたちが内容を理解していることが分析でき、今後の子ども向け事業の参考となる実績を得ることができた。</p> <p>令和2年度は、令和元年度準備してきたものを活用しながら各団体等と連携し、更なる事業の充実を図る。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>①マダム・バタフライコンサート：中止 ②大人向けノンクラシックコンサート：オンライン配信 ③親子コンサート：オンライン配信 ④たのシツク・フェスティバル：オンライン</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>①0人(中止) ②5人(出演者)、125人(アクセス延べ人数) ③6人(出演者)、246人(アクセス延べ人数) ④30人(出演者)、446人(アクセス延べ人数)</p> <p>計858人(出演者41人、アクセス延べ数817人)</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、観客を入れたコンサートは中止となったが、オンラインを活用した内容(無観客コンサートの動画配信や視聴者参加型のワークショップなど)に変更し、誰でも無料で視聴や参加ができるようにしたこと、事業についてより多くの方に知っていただく機会をつくることできた。</p> <p>また、ホームページ開設により通年を通して、マダムバタフライの魅力の発信が可能となった。</p> <p>今後も、オンラインを活用した企画など、実施方法を工夫して事業を展開していくことで、事業の周知を図り、新たな参加者を取り込みながら事業の充実を図る。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
6	<p>(事業名) 長崎文化時間の創出事業費</p> <p>【担当課名】 文化振興課</p> <p>(事業目的) コロナ禍の中、市民文化団体や市民演奏家等が出演する機会を設けることで、市民文化団体や市民演奏家等の活動再開を応援するとともに、市民が芸術文化に触れる機会をつくり、心豊かな生活を取り戻すきっかけをつくる。</p> <p>(事業概要) 「三密」を避けるなど、国が示す「新しい生活様式」にあった方法で、長崎市の施設等を会場とした屋外コンサートや演劇公演等を行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	入場者数	
		目標値	1,200 人	
		実績値	1,609 人	
		達成率	134.1 %	
		決算(見込)額	12,038,588 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な音楽に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目標としているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、市の施設を利用した屋外コンサートや演劇公演等の参加予定者を1,200人とした。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コンサート 開催日: 8月22・29日、9月12・19・21日、10月18日、11月28・29日、3月6日(9回) 会場: グラバー園、ブリックホール、チトセピアホール ・朗読劇 開催日: 12月5日(2回)、3月7日(2回) 会場: 東山手甲三番館、出島 ・演劇 開催日: 2月23日、3月20・21・24~27日(計3回) 親子向け演劇公演2回・子ども演劇体験1回 会場: ブリックホール ・いけばな体験 開催日: 12月20日(2回)、3月6日(2回) 会場: グラバー園、ブリックホール ・映画上映会 開催日: 9月26日(1回) 会場: 高浜アイランド ・茶会 開催日: 9月21日(1回) 会場: 心田庵 <p>(成果・課題等)</p> <p>参加者数計 1,609人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コンサート 入場者数: 1,044人 ・朗読劇 入場者数: 74人 ・親子向け演劇公演 入場者数: 89人 ・子ども演劇体験 参加者数: 延べ126人(21人×6回) 発表会観覧者数: 69人 ・映画上映会 入場者数: 118人 ・いけばな体験 参加者数: 89人 <p>「新しい生活様式」を取り入れた方法で、新型コロナウイルス感染症に対応した事業を実施した。</p> <p>コロナ禍の影響で機会が減少していた市民演奏家等の出演、市民の鑑賞の機会を提供するとともに、新しい生活様式でのコンサート開催のノウハウなどを蓄積し、市民文化団体とのコロナ禍に対応した事業実施手法の共有ができた。</p> <p>今後も市民文化団体と連携し、市民が芸術文化に触れられる機会を創出できるよう事業を展開する。</p>			

令和3年度 個別施策評価シート

個別施策	G4-2 市民の自主的な芸術文化活動の活性化を図ります				
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図			
	市民が	自主的な芸術文化活動を活発に行っている。			
個別施策主管課名	文化振興課	所属長名	高木 規久子		

令和2年度 of 取組概要

- ①市民参加・普及啓発型事業の展開
- ・市民参加舞台の公演に向け、脚本の制作や出演者のオーディションに向けた準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演に向けた取組を行うことができなかったため、オーディション応募者を中心に、少人数での演劇ワークショップを実施した。
 - ・市内の小中学校で、地元演劇人による演劇アウトリーチを実施した。
 - ・子どもから大人までを対象にしたダンスワークショップを実施した。
 - ・子どもたちを対象に、日本舞踊、水墨画、いけばななど日本の伝統文化の体験教室を実施した。
 - ・新たな生活様式を取り入れた「長崎文化時間の創出事業」の中で、新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、いけばな体験(4回89人)や子ども向け演劇体験教室を開催した(6日間、延べ参加者126人、発表会観覧者69人)
- ②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み
- ・市民文化団体の自主的な活動を支援する芸術文化活動助成金については、オンライン開催なども対象となることを周知するとともに、追加募集も行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で約半数が中止となった。(採択8件、中止4件)
- ③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出
- ・市民演劇祭(3月13日～14日、20日～21日)、市民美術展(前期11月26日～12月3日、後期12月5日～12月13日)、市民いけばな展(3月5日～3月7日)を実施したが、市民音楽祭については、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。
- ④文化事業を支援する人材育成の取組み
- ・ブリックホールサポーターについては、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの中止が多かったため、活動の場が少なくなった。アートサポーターについては、アーティストや市民と一緒に作品づくりに取り組むなど活躍の場を一定確保できたが、集大成である展覧会の中止により活躍の場が予定よりも減少した。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H29	H30	R元	R2	R3
ブリックホールサポーター登録者数	74人 (26年度)	↑	目標値	90	90	90	90
			実績値	91	68	69	63
			達成率	101.1%	75.6%	76.7%	70.0%
市民文化団体の登録数	282団体 (26年度)	↑	目標値	273	292	277	296
			実績値	266	271	236	245
			達成率	97.4%	92.8%	85.2%	82.8%
市民文化団体の所属者数	33,224人 (26年度)	↑	目標値	31,941	34,164	32,409	34,632
			実績値	23,803	24,084	20,803	21,122
			達成率	74.5%	70.5%	64.2%	61.0%

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①市民参加・普及啓発型事業の展開 新型コロナウイルス感染症に対応した「長崎文化時間の創出事業」の中で、市民文化団体と一緒に参加型ワークショップを行うことで、新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえでの実施方法等を共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎文化時間の創出事業 いけばな体験(4回、89人) 子ども向け演劇体験(6日間、延べ参加者126人、発表会観覧者69人) 	<p>既存の事業については、コロナ禍であっても、子どもから大人まで幅広い世代が、芸術文化に触れる機会を提供でき、自主的な文化活動へのきっかけづくりを継続することができた。</p> <p>市民文化団体と協力し、新しい取り組みを行ったことで連携が深まり、今後も、新しい取り組みに挑戦する土壌づくりができた。</p>
<p>②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化団体に対する助成金については、新型コロナウイルス感染症の影響で、入場者数を制限することでチケット収入が減少するなどイベント開催が困難な中、オンラインで開催する団体があるなど、活動を支援することができた。(4団体、781千円) 	<p>音楽、演劇、舞踊など様々な分野の活動に交付し、文化団体の活動に対して直接的な支援を行うことにより、芸術文化活動の継続を支援することができた。</p>
<p>③市民が参加・出演し芸術文化を楽しめる場の創出</p> <p>市民文化団体と協力して、新型コロナウイルス感染症対策を行うことで、多くの市民が芸術文化活動を継続できた。中止した事業についても、対応策の検討を詳細にわたって行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民演劇祭の実施(4日間、638人) ・市民美術展の実施(17日間、8,618人) ・市民いけばな展の実施(3日間、1,021人) 	<p>コロナ禍であっても、市民の芸術文化活動の発表の機会を設けることにより、団体や個人が自主的に芸術文化活動を行う場づくりを継続できた。また、新型コロナウイルス感染症対策を検討する中で、新たなアイデアが出されるなど、今後の活性化につながる協議を行うことができた。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①市民参加・普及啓発型事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを対象にした体験教室やワークショップにおいては、内容によって申込者が減少傾向にある。 ・20～30代の若者世代の参加者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容や魅力が十分に伝わっていない可能性がある。 ・申込方法がコールセンターや往復はがきなど、働いている親が申込手続きを取りにくい環境にある。 ・平日の夕方など若者が参加しやすい時間では開催しておらず、周知も広報紙がメインであるなど、若い世代をターゲットとした企画や情報発信ができていない。
<p>②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化団体の団体数や所属者数が減少しており、メンバーの高齢化も進展している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化団体が独自で情報発信する手法を持っておらず、メンバー募集やイベントや活動内容を広く周知することができない。
<p>④文化事業を支援する人材の育成の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブリックホールサポーターの登録者数が減少しており、活動内容も広がっていない。 	<p>ブリックホールサポーターの活動内容が固定化している。また、活動内容の周知ができていない。</p>

今後の取組方針

①市民参加・普及啓発型事業の展開

- ・新たに開設した芸術文化専用ホームページや、SNSを含めた様々な媒体を活用して、参加者募集等を広く周知するとともに、実施した事業の動画等を掲載することで、事業の内容を理解してもらい、参加しやすくする。
- ・子どもの頃から芸術文化に触れることで、大人になっても芸術文化活動を行う市民を増やすため、子どもや親子向けの事業を充実するとともに、参加者が少ない若者向けの事業を企画することで、芸術文化活動を再開したり、新たに始める人を増やす。
- ・演劇アウトリーチやワークショップでは、芸術文化体験ができるだけでなく、コミュニケーション能力を育み、自己表現を豊かにし、他者理解が深まるなどの効果があることも周知するなど、それぞれの事業の内容だけでなく、効果なども伝えるなどアプローチを工夫することで、新たに取り組む学校や市民を増やす。
- ・20～30代の若者世代を対象とした事業について、令和2年度はコロナの影響により実施できなかったため、引き続き、若者世代が参加しやすい時間帯で企画し、スマホ等で気軽に情報を入手したり、申し込みができるよう、芸術文化専用ホームページも活用して周知を行い、若者世代の参加者を増やす。

②市民の自主的な芸術文化活動を活性化する取組み

- ・芸術文化活動助成事業については、状況に応じて対象経費をわかりやすく解説するなど、多くの芸術文化活動を支援できるよう、制度をわかりやすくより広く周知し、活用の促進を図る。
- ・新たに開設した芸術文化専用ホームページでは、市民文化団体が自ら情報発信できる掲示板を設置したことから、イベントの周知やメンバー募集などに活用してもらい、各団体の活動の活性化につなげる。
- ・新たに創設した芸術文化大会等への出場に対する奨励金の交付により、子どもたちの芸術文化活動を奨励することで、大人になっても芸術文化活動を続ける市民を増やす。

④文化事業を支援する人材の育成の取組み

- ・ブリックホールサポーターの登録推進のためにイベント開催時に登録制度をPRするなど広報周知を強化するとともに、新設した芸術文化専用ホームページで活動状況を伝えるなど、活動の周知を充実させる。
- ・インターンシップや大学と連携したボランティアの受入れなど、多くの市民が様々な事業に参画する機会を創出することで、芸術文化活動への興味関心を高め、自主的な文化活動の活性化を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
1	<p>(事業名) 市民参加型舞台公演等開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 長崎では鑑賞する機会が少なかった、著名な劇作家・演出家が手掛ける質の高い小劇場から中劇場向けの舞台芸術作品を招聘し、新たな観客の獲得につなげるとともに、舞台芸術に係る人材育成と活動の活性化を図る。</p> <p>(事業概要) 公募で集まった市民と一緒に1年目、2年目に制作した戯曲や音楽をもとに舞台作品を作り、公演する。さらに、様々なワークショップを開催する。なかでも演劇アウトリーチは、演劇をツールとして市民の豊かなコミュニケーション力の育成に寄与するものであり、参加する子どもが増えることで、将来的にまちづくりを担う市民の人材育成にもつながるものである。</p> <p>令和2年度は平成29年度から取り組んでいる市民参加舞台「ながさきのたね」の最終年度として、出演者オーディション、稽古を経て公演を行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	620 人	2,970 人
		実績値	584 人	519 人
		達成率	94.2 %	17.5 %
		決算(見込)額	4,202,022 円	1,967,441 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が演劇に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>過去の実績や定員から、620人(演劇のための作曲ワークショップ120人(参加者20名×6回・延)演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、こども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)、ダンスワークショップ100人)を目標値とした。</p>	<p>目標値は、市民参加舞台2,570人(出演者70人、観客2,500人(1,250人×2公演)演劇アウトリーチ300人(20人×15回)、こども演劇体験教室100人(参加者20人、観客80人)を想定した。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・作曲ワークショップ 日程：7月21日、8月11日、8月18日、10月20日、11月17日、1月25日 会場：長崎ブリックホール ・こども演劇体験教室 日程：8月5日、19日、20日、22日～25日 会場：長崎ブリックホール ・演劇アウトリーチ 回数：15回(小学校8回、中学校7回) ・ダンスワークショップ 日程：7月30日、11月16日 内容：ヒップホップ(2回)、親子ダンス(1回)</p> <p>(成果・課題等) 参加者数：584人 ・作曲ワークショップ 参加者：延べ92人(6日間) ・こども演劇体験教室 参加者：24人 発表会入場者：105人 ・演劇アウトリーチ 参加者：277人(15回) ・ダンスワークショップ 参加者：86人(3回)</p> <p>作曲ワークショップの参加者は目標の20人を上回る21人だったが、毎回参加することが難しい人が多く、6回の合計参加者数は目標を下回った。演劇のための作曲というなかなか関わることのないジャンルに市民が挑戦できた。令和2年度の舞台発表にこれまでの取組みをつなげていく。こども演劇体験教室は、毎年応募者が定員を上回っており、今回は発表会の入場者も過去最高人数となった。演劇アウトリーチについては、今年度は、小規模の学校で実施した回が多く、目標人数としては下回ったが、演劇に触れる機会が少ないホールから距離がある地域の子どもたちにも演劇に触れる機会を提供することができたほか、廃校予定の学校では保護者と参加するなど、新たな取組みができた。ダンスワークショップについては、3月8日実施予定の回をコロナウイルス拡大防止のため中止としたことにより、目標人数を下回った。今後も継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。</p>	<p>(取組実績) ・演劇ワークショップ 日程：10月4日、10月24日、11月8日、12月6日、12月19日、3月28日 会場：長崎ブリックホール ・演劇アウトリーチ 回数：9回(小学校9回) ・ダンスワークショップ 日程：3月6日</p> <p>(成果・課題等) ・参加者数：519人 【内訳】 ・演劇ワークショップ 参加者：延べ175人(6日間) ミニ発表会入場者：38人 ・演劇アウトリーチ 参加者：297人(9回) ・ダンスワークショップ 参加者：9人(1回)</p> <p>市民参加舞台の公演に向け、脚本の制作や出演者のオーディションに向けた準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演に向けた取組を行うことができなかったため、オーディション応募者を中心に、少人数での演劇ワークショップを実施した。また、ダンスワークショップについても、少人数で感染症対策を行い実施した。公演は延期となったが、方法や内容を工夫して市民が舞台芸術に関わる機会を提供することができた。</p> <p>演劇アウトリーチについては、16回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で7回を中止したが、実施できた9回については、感染症対策として講師と児童が接触しない内容に変更し、コロナ禍にあっても子どもたちに演劇に触れる機会を提供することができた。</p> <p>今後も新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、継続して市民が舞台芸術に関わる機会を提供していく。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
2	(事業名) 芸術文化活動助成事業費 【文化振興課】 (事業目的) 市内の文化団体への助成を行うことにより、自主的な芸術文化活動を支援し、芸術文化の向上及びコミュニティの醸成を図る。 (事業概要) 文化団体の自主的な芸術文化活動及び合併地区における文化の振興並びにコミュニティの醸成に寄与する文化事業に対し、30万円を限度として助成金を交付する。	実施年度	継続	
		成果指標	助成件数	助成件数
		目標値	12 件	12 件
		実績値	8 件	4 件
		達成率	66.7 %	33.3 %
		決算(見込)額	1,796,050 円	881,693 円
		成果指標及び目標値の説明	限られた予算の中で、文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指すため、助成件数を成果指標とした。1件あたりの助成額を上限額として算定し、予算額から令和元年度は12件を目標値とした。	限られた予算の中で、文化団体への助成を行うことで市民の芸術文化活動を支援することを目指しているため、一件あたりの助成上限額300千円を助成金予算総額から割った件数を成果指標とした。 3,600千円÷300千円=12件
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。 (成果・課題等) 交付額:1,708千円 交付申請件数:8件(うち合併地区0件) 前年度に比べ、申請件数が少なく、合併地区枠での申請もなかった。 本制度の周知方法が課題であり、周知方法を見直し、積極的な文化活動への取組みを啓発する必要がある。	(取組実績) 市内文化団体の芸術文化活動に助成を行った。 (成果・課題等) 交付額:781千円 交付内定件数:8件(うち合併地区1件) 交付申請件数:4件(うち合併地区0件) 新型コロナウイルスの影響により活動が制限されている文化団体を支援するため、昨年度助成金の交付を受けた団体についても助成の対象としたほか、動画配信やWEB上での作品発表などのオンライン開催も対象として追加募集を行った。 結果、8件の事業が採択され、4件がオンライン開催などの手法により実施できたが、残り4件は感染状況などの理由により中止となった。 今後もコロナ禍に対応したオンラインなどの開催方法を含め、市民文化団体の活動が継続できるよう支援する。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
3	<p>(事業名) 芸術文化体験教室開催費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) (R元年度まで) 子どもが、気軽に芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。</p> <p>(R2年度から) 若者が気軽に様々な芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高めながら、若者が楽しめるまちづくりに寄与する。</p> <p>(事業概要) (R元年度まで) 日本の伝統文化の体験講座を小中学生を対象に開催する。</p> <p>(R2年度から) 20～30代の若者を対象に、様々なジャンルの芸術文化に、楽しみながら触れる機会を創出し、裾野の拡大を図るとともに、若者が楽しめるまちづくりに寄与する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	130 人	30 人
		実績値	89 人	0 人
		達成率	68.5 %	0.0 %
		決算(見込)額	655,392 円	0 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が伝統文化をはじめ様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>講座の定員130人(箏10人、茶道60人(30人×2回)、いけばな60人)を目標値とした。</p>	<p>市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値は、講座の定員数(30人)とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 伝統文化体験教室 対象: 小学4年生から中学生 ジュニア箏体験教室 日時: 令和元年9月14日、23日、29日、10月14日、19日、20日(6日間) 会場: ブリックホールリハーサル室 ジュニア茶道体験教室 日時: 令和元年7月29日(2回) 会場: ブリックホール和室1・2、茶室 ジュニアいけばな体験教室 日時: 令和元年8月26日(1回) 開場: ブリックホール会議室</p> <p>(成果・課題等) 参加者数: 89人 伝統文化体験教室 ジュニア箏体験教室 参加人数: 8人(応募数10人) ジュニア茶道体験教室 参加人数: 32人(応募数38人) ジュニアいけばな体験教室 参加人数: 49人(応募数92人)</p> <p>ジュニア箏体験教室においては、講座回数を前年度から1回増やして6回とし、練習内容を充実させたうえで発表することができた。 ジュニア茶道体験教室は参加者数が定員に満たなかったが、その分一人ひとりに指導が行き渡った。 ジュニアいけばな体験教室は、定員を超える応募があった。講師の数も充実しており、参加者の満足度が高かった。 様々なタイプの教室を用意することで、子どもたちがそれぞれの興味関心に応じて教室を選択でき、また、各教室は参加者のみならず保護者からも好評であった。 今後も、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけるよう継続した事業展開を行いたい。</p>	<p>(取組実績) なし</p> <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施していないため成果はない。 参加者同士が交流しながら、芸術文化を体験できるよう企画していたため、新型コロナウイルス感染防止を行いながらの実施が困難であった。 今後は、これまでに蓄積した「新しい生活様式」を取り入れた手法で新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行ったうえで事業を実施する。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	令和元年度	令和2年度
4	<p>(事業名) 子ども芸術文化体験事業費</p> <p>【文化振興課】</p> <p>(事業目的) 子どもが、気軽に芸術文化を体験できる機会を創出し、芸術文化活動に対する興味・関心を高める。</p> <p>(事業概要) 日本の伝統文化の体験講座をこどもと親子を対象に開催する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	参加者数	
		目標値	40 人	
		実績値	65 人	
		達成率	162.5 %	
		決算(見込)額	538,666 円	
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民が様々な芸術文化に触れる機会を創出することで、芸術文化に対する興味関心を高めることを目指しているため、参加者数を成果指標とした。 目標値は、講座の定員数(40人)とした。</p>	
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 伝統文化体験教室 対象:小学1年生から中学生 ジュニア日本舞踊体験教室 日時:令和2年11月28日、29日(2日間) 会場:ブリックホールリハーサル室 ジュニア水墨画体験教室 日時:令和2年11月28日 会場:ブリックホール会議室1・2 ジュニアいけばな体験教室 日時:令和2年11月29日(1回) 開場:ブリックホール国際会議場横ラウンジ</p> <p>(成果・課題等) 参加者数:65人 伝統文化体験教室 ジュニア日本舞踊体験教室 参加人数:10人(応募数10人) ジュニア水墨画体験教室 参加人数:14人(応募数15人) ジュニアいけばな体験教室 参加人数:41人(応募数44人)</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで事業を実施した。 ジュニアいけばな体験教室は、定員を超える応募があり、講師も十分に配置でき、参加者の満足度が高かった。 今後も、各種体験の内容に応じて必要な対策を講じるなど、市民文化団体と連携したうえで、日本の伝統文化を体験する機会の創出を通じて、子どもたちの伝統文化への理解と興味・関心を促し、保護者にも満足していただけるよう継続した事業展開を行いたい。</p>			